

シャロームタイムズ

2018年8月12日（日）発行

宗教法人

野毛山キリストの教会

〒220-0032 横浜市西区老松町30番地

平和聖日

今年7月29日を当教会の平和聖日として、平和について考え、過去の戦争の過ちを忘れないように、風化されないようにと覚えて礼拝をささげました。未だになくならないテロ・戦争。また、日本国内でも残虐な信じられないような事件が起こっています。共にキリストによる平和を祈りましょう。



説教

「平和に過ごすこと」

牧師 奈良 昌人

聖書 マルコによる福音書9章49節以下

「人は皆、火で塩味を付けられる。塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは何によって塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい。」

平和を実現することはなんと困難なことでしょうか。争いを避けるあまり、関係を避けて孤立しては平和を実現することにはなりませんし、力づくで相手をねじ伏せて平和を実現することも真の平和とは言えません。「平和を実現する」には何が必要なのでしょう。主イエスは「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」と言われ、私たちに神の子になるよう命じられます。エフェソ2章14節以下に「実に、キリストはわたしたちの平和であります。十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ばされました。」とありますが、主の十字架は、神から離れ自分勝手に生きていた罪人である人間が、創造主である神と和解させてくださった出来事であり、人間同士の敵意（罪）も同時に主の十字架により取り去られました。その神の独り子キリストが実現された平和は、私たちが実現しようとする平和とは全く異なり、つまり無関心でも力でもなく、相手の敵意をその身にすべて引き受けて死ぬことによって実現された平和です。このキリストを忘れて離れ、信仰につまずかせるようなら、そのつまずきをもたらす手、足、目を切り捨てなさいと主イエスは言われます。つまり、キリストの十字架から離れて平和を実現することは不可能であると言われるのです。50節では「あなたがたは、自分自身のうちに塩気を保ちなさい」と言われます。これは、外から塩を塗って清めるのではなく、自分自身のうちに塩を持つこと。つまり、自分の内側から自分自身を清める生き方を示されているのであり、主イエスが心の内に宿られることなのです。こんな話があります。

大金持ちの人たちが自分のグルメ具合を、互いに自慢しようとして、それぞれが食べたことのある一番うまい料理を持ってきた。色々なすべい料理が出てきましたが、一人が変わったものを持ってきました。皿を持った白い「塩」です。

他の人々は笑って「そんなものが世界で一番うまい料理だつて」「笑わせるな」「誰だつて食べてるじゃないか」と言いました。しかしその人は答えました。「そうです。とてもつまらないものですが、これが私は世界一おいしいと思えます。しかしあなた達は笑いました。それではおかしい塩抜きの料理を食べて下さい。塩抜きの料理を想像してみてください。とても食べられないと思います。塩は調味料の王様とも言われ、塩がなければ、料理として成り立ちません。「塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは何によって塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい。」地の塩は自分の魂を守るとともに、人にも「おいしい思い」をさせる調味料であり、地の塩を持つ人の周りには「平和」がやってきます。「互いに平和に過ごしなさい」と呼びかけられているのは、私たち一人一人です。心の内に「塩」である主イエスを迎え、互いに平和に過ごして参りましょう。

いのちの重み

高橋 忠彦

私は警察官になって今年で26年目を迎えます。勤務地の東京では日々さまざまな事件、事故が起きています。我々警察官は時として人の死に対して真正面から向き合わなければなりません。事件、事故、自殺、最近では孤独死も増えてきています。たくさんの方が暮らす大都会東京でも人知れず、誰にも看取られることなく息を引き取っていく方が今この瞬間にもいるということが現実です。私の職場にも毎日のようにご遺体が運ばれてきます。知人と連絡が取れない新聞受けの新聞が溜まっている、部屋から異臭がするなどの通報が入ると孤独死の可能性を疑います。そのような状況において私もご遺体の搬送から検死と言つてご遺体への事件性の有無を調べることもやります。

今、お話ししたような人の心に関わる仕事の中で、私が特に辛い場面は遭遇することがあります。それは子どもさんが被害者となった交通事故です。私だけではなく、おそらくどの警察官も辛い気持ちだと思います。ある時、事故の連絡が入り現場に駆けつけました。現場近くと近所の住民が不安げにトラックの方向を見つめています。私はトラックに近づくと交番の警察官が「子どもが下敷きになっていました」と言いながら必死に助け出そうとしていました。しかし、なかなか救出することができないうちに、レスキュー隊や救急車が次々に到着し、ようやく救出することができました。しかし、子どもさんはぐったりし、意識がないようでした。応急処置をしている救急隊員の口から「レベル300」という言葉を耳にしました。「レベル300」という言葉を耳にしたのは医療用語で、意識障害があり、痛覚反応もない状態を意味します。その時点で重篤な症状であることがわかります。私



は救急車に乗り、子どもさんに付き添うことになりました。「助かってくれ」と心の中で祈りながらストレッチャーを見送りました。救命処置が続いている間も事故現場の同僚と連絡を取り合せて身元の判明につながる作業を続けましたが、なかなかかわからずにいました。しばらくすると、処置室から医師が出てきて「危篤の状態です。早く親御さんを呼んでください」と要請されました。いろいろ手を尽くすのですが身元は判明しません。まもなく、医師から「警察の方処置室に入ってください」と声がかりました。私にとって一番辛い瞬間です。医師からは「親御さんには申し訳ありませんが、これ以上処置のしようがありません。大変お気の毒ですが」と告げられます。私は自分の時計と処置室の時計に目をやり、時間を確認します。医師も私が告げた時間が死亡時間ということにうなずきます。私は処置に当たつてくれた医師たちに一礼し、処置台の上で水のように冷たくなってしまった子どもさんの臨終を看取りました。「助けてあげられなくて申し訳ない」と声をかけてあげたのかもしれない自分が情けなく思いました。その後、身元が判明し、数名の警察官に付き添われて両親が病院に駆けつけてきました。放心状態の両親に私は事故の状況と救命処置の状況について説明し、子どもさんの臨終時間と最後を看取らせてもらったことを報告し、霊安室に安置されたご遺体の確認してもらえました。よく「人の命は地球よりも重い」と言われますが、その言葉は今、目の前で起きていることを言うんだと強く感じました。大切な「命の重み」を肌で、いや全身で感じながら幼い命をどうすれば守つてあげられるかを考えなければならぬと強く思いました。そして、水のように冷たくなってしまった子どもさんの感触は一生忘れることはありません。

私は仕事の休みの日に教会の礼拝に出席するようにしています。なぜならば、教会の皆様が神様へ日々の生活や無事に生かされていることへの感謝をしている姿を見て、私も危険と隣り合わせの仕事でありながら、おかげさまで無事に勤務していることへ感謝をしなければならぬと感じたからです。我が子も幼稚園で神様に守られて無事に卒園を迎え、小学生になりました。当たり前のごとくに思えますが、この「あたりまえの日常」を送る事は時としてとても困難になることが日々の仕事の中で感じています。「あたりまえの日常」に感謝するとともに、子供たちにもそれを伝え、さらに皆様がこれからも続くように、微力ではありますが、困難な仕事に向かつていきたいと思っています。



聖書の言葉

平和を実現する人たちは
幸いである。
その人たちは
神の子と呼ばれる。
マタイによる福音書5章9節

シャロームタイムズ

2018年8月12日(日)発行

宗教法人

野毛山キリストの教会

〒220-0032 横浜市西区老松町30番地

平和コンサート

愛と平和の宅急便 きたがわてつさん



- ♪ ブラザーサン・シスタームーン
- ♪ 翼をください
- ♪ 千の風になって
- ♪ 平和通りを歩く
- ♪ 九条
- ♪ 日本国憲法前文
- ♪ ヒロシマの有る国で

- ♪ そんな町を
- ♪ We Shall Over Come



聖フランシスコ 平和の祈り

主よ、あなたの平和をもたらす道具として、私をお使いください

憎しみのあるところには、愛を
不当な扱いのあるところには、一致を
疑惑のあるところには、信仰を
誤っているところには、真理を
絶望のあるところには、希望を
暗闇には、光を
悲しみのあるところには、喜びを
もっていくことができますように
慰められることを求めるよりは、慰めることを
理解されることよりは、理解することを
愛されるよりは、愛することを
求める心をお与えください
私たちは自分を忘れ去ることによって、自分を見いだし
許すことによって、許され
死ぬることによって、永遠の命をいただくのですから

ヒロシマの有る国で

詞曲 山本さとし

八月の青空に 今もこだまするのは
若き詩人の叫び 遠き被爆者の声
あなたに感じますか 手のひらの温もりが
人の悔し涙が 生き続ける苦しみが
わたしの国とかの国の 人の生命 (いのち)は同じ
このあおい大地のうえに同じ生を得たのに
※ヒロシマの有る国で しなければならぬことは
ともるいくさの火種を 消すことだろう

かの南の国では 大国がのしかかり
寡黙な少年らが 重い銃に身をやく
やせた母の胸に 乳のみ子が泣きさけび
はだしではだかのまま 逃げまどう子どもたち
故国の土をふむことも 家族と暮らすことも
許されない戦争がなぜに今も起こる

※ くりかえし

わたしの国とかの国の 人の生命 (いのち)は同じ(平等)
このあおい大地の上に同じ生を得たのに

※ くりかえし



広島 (ヒロシマ)

1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分。
原子爆弾リトルボーイは、第33代アメリカ
合衆国大統領ハリー・S・トルーマンの
原子爆弾投下の大統領命令を受けたB-29
(エノラ・ゲイ)によって投下されました。

この1年に亡くなった方 5393人
計31万4118人

長崎 (ナガサキ)

広島の3日後の1945年8月9日午前11時2分、
B-29 (ボックスカー)が長崎市に原子爆弾
ファットマンを投下しました。

この1年に亡くなった方 3511人
計179226人

子ども代表「平和への誓い」

人間は、美しいものをつくることができます。
人々を助け、笑顔にすることができます。
しかし、恐ろしいものをつくってしまうのも人間です。昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分。原子爆弾の投下によって、街は焼け、たくさんの命が奪われました。「助けて。」と、泣き叫びながら倒れている子ども。「うちの息子はどこ。」と、捜し続けるお父さんやお母さん。「骨をもらってください。」と頼む人は、皮膚が垂れ下がり、腕の肉が無い姿でした。広島は、赤と黒だけの世界になったのです。73年経ち、私たちに残されたのは、血がべっとりついた少女のワンピース、焼けた壁に記された伝言。そして今もなお、遺骨の無いお墓の前で静かに手を合わせる人。広島に残る遺品に思いを寄せ、今でも苦しみ続ける人々の話に耳を傾け、今、私たちは、強く平和を願います。平和とは、自然に笑顔になれること。平和とは、人も自分も幸せであること。平和とは、夢や希望をもてる未来があること。苦しみや憎しみを乗り越え、平和な未来をつくろうと懸命に生きてきた広島の人々。その平和への思いをつないでいく私たち。平和をつくることは、難しいことではありません。私たちは無力ではないのです。平和への思いを折り鶴に込めて、世界の人々へ届けます。73年前の事実を、被爆者の思いを、私たちが学んで心に感じたことを、伝える伝承者になります。

平成30年(2018年)8月6日
子ども代表

広島市立牛田小学校 6年 新開 美織
広島市立五日市東小学校 6年 米廣 優陽



平和の握手

主の平和がありますように

きたがわてつさんが大病をされた時に出会った歌
ブラザーサン・シスタームーン
(君に贈るラブソング)。
この歌と出会い、とても力をもらったとのこと、これは聖フランシスコの祈りからきています。

ブラザーサン&シスタームーン
限らない 愛の力
秘かに 受け止めた
行かれた 世の中には
果てしなく なやむけれど
夜明けは たずねてくる
愛されるより 愛したい
空を飛ぶ鳥のように
ブラザーサン&シスタームーン
帰らない 今日の日を
確かに生きていたい

